



環境化学・食品衛生

管理監督者 担当課長～

25年目以降
(40代後半～)

グループリーダー 主任主査級

(主任主査、上席専門研究員)
20～25年目程度
(40代中盤～)

サブリーダー 主査級

(主査、主査専門研究員)
15～20年目程度
(30代後半～)

中堅 主任級

(主任、主任専門研究員)
10～15年目程度
(30代中盤～)

若手 技師級

(技師、専門研究員)
2～10年目程度
(20～30代前半)

新人 新採用

1年目

主な配置先：環境生活部環境生活企画室・環境保全課・資源循環推進課・自然保護課・県民くらしの安全課、広域振興局保健福祉環境部（保健福祉環境センター）、環境保健研究センター 等

県職員としての土台づくり。
知識経験をしっかり吸収。

様々な分野を経験。実務
の中核として活躍。

視野を広げながら担当業務
を推進。後輩もフォロー。

幅広い視野で業務を推進。
チームの要として活躍。

チームを引っ張り、県
の政策・施策を立案。

豊富な知識・経験で
組織をマネジメント。

【新採用～概ね5年目】

・採用職種に応じ、公害、廃棄物、衛生（食品・生活）等の業務を経験し、業務のベースとなる基礎的知識を習得

📌 若手職員の配置
実務的専門性を高め、
適性を把握するため、**採用から主任昇任までの間に、本庁・振興局・試験研究機関等の出先機関をバランスよく経験。**

【採用6年目～主任】

[本庁]

- ・予算や政策の企画等にも関与し、より高度な業務を経験する中で、行政職員としての幅広い分野の知識を習得
- [出先機関]
- ・地域における施策の検討にも関与し、より高度な業務を経験
- ・主任級の職員は、環境保健研究センターにおける研究部門の業務経験などにより、幅広い分野の知識を習得

【共通】

- ・部下職員の育成、担当内業務のマネジメントを経験し、リーダーとしての資質を習得
- [政策・企画系]
- ・施策等の立案能力や判断能力、調整能力を習得
- [事業・研究系]
- ・周辺地域の課題分析及解決策の立案を通じ、自己の有する専門性を高度化

- ・管理監督職として所属職員や事務事業をマネジメントする能力
- ・これまでに培ってきた専門分野の知識・経験等を踏まえた高度な能力（説明・交渉・調整力、判断力、指導力、分析力）の発揮
- ・人材育成能力

新採用職員等研修（各分野座学・現地研修）

分野別初任者研修（公害、廃棄物処理、食品衛生 等）

分野別実務・実地・伝達研修（公害、廃棄物処理、食品衛生 等）

人材育成研修（技術職キャリア研修、会計事務研修、議会事務研修、女性活躍講座 等）

環境生活部・マイスター制度による若手職員に対する業務・キャリア形成等支援

【外部】派遣研修（国立保健医療科学院、環境省環境調査研修所 等）

📌 育成方針：職場を離れて受講する研修（off-JT）に加え、日常の仕事を通じた上司・先輩からの指導（OJT）や自主的な学習・研鑽（自己啓発）を組み合わせる育成

注1：各職位の目安（○年目）は大卒程度を想定したものです。

注2：研修のうち太い枠線のあるもの（着色されているもの）は必修研修であることを表しています。

キャリア

必要な知識・能力・役割

職員育成（主な研修）